CARE World

生きるチカラを信じて支える

Vol. 20 ケア・インターナショナル ジャパン Newsletter March 2012

ケア・インターナショナル ジャパンは、世界70カ国で貧困の根源の解決に取り組む国際協力NGO、CAREの日本事務局です。CAREの活動は、世界中の33万人のサポーターに支えられています。

Contents

page 1 事務局 長による一年の 振り返り
page 2 宮古事務所 担当者の想い
page 3 東京からも想いを届けて
page 4-5 一年のハイライト 皆のチカラを信じて支える
page 6 多様化するCAREx企業の連携
page 7 いろいろな支援のカタチ
page 8 事務局からの報告

東日本大震災 1年の振り返り

未曾有の大災害となった東日本大震災。一瞬に多くの命を奪った津波が押し寄せて、1年が経ちます。多くの人々が被災者の援助に携わり、政府機関や支援組織の他に、個人も企業も支援の手を差し伸べました。皆が無我夢中で支援しました。人道支援を行う組織としての立場からすると、東日本大震災は多くの課題と教訓を残すものとなりました。先進国での大規模災害、しかも原発問題も重なり、これほどまでに複合的な大惨事は過去になかったことでしょう。内部での議論をもとに、この1年を振り返ってみたいと思います。

本大災害への緊急対応は、当財団にとっては初の国内災害支援となり、またCAREにとっては先進国における初の緊急支援活動となりました。概して、グローバルな組織としての連帯と多くの温かいご支援を強みに、「人々が尊厳を持って安全に暮らす」という我々CAREのビジョンに基づいて、適切且つタイムリーな緊急支援を通じて、人道支援団体としての任務を果たすことができたと思います。もしこの規模の大災害に対応しなかった場合、人道支援団体としてのCAREの評価はおそらく損なわれていたことでしょう。

また2011年11月には、被災地における関係者ならびに国内外のCARE関係者、また支援者の皆様とともに、「説明責任に関する簡易事業評価」を実施。被災者をはじめとする皆様から、非常に高い評価を受けました。

特記すべきことはいくつかありますが、まず、途上国と日本での緊急支援の違いがあります。例えば、被災者のニーズと行政からの要請に基づき、釜石市において被災された半壊住宅世帯に対して家電製品の提供を行いましたが、これは途上国での支援では考えられない支援物資と言えるでしょう。これまでにはないモノサシで、支援の適正を判断する必要がありました。さらに、ボランティアの活用が先進国での支援に有効に機能することも実証されました。今回、非常に限られた時間の中で、緊急支援の実務経験のある人材を採用することが困難であったため、ボランティアの皆様のチカラが大いに役立てられました。

一方、課題や教訓も多くありました。緊急支援段階では、人員の不足、資金の遅延、ニーズ調査の不完全性、組織内部のコミュニケーション不足などがありました。職員を瞬時に2～3倍に増員しなければなりませんでしたが、緊急支援の経験を有する人材を募集・採用することは困難を極めました。また、CAREの国際的なネットワークを活用して、海外事務所による資金調達が瞬時に展開された一方で、実際に資金が送金されるまではそれなりの時間を要しました。さらに、行政機能の混乱やNGOから支援を受けることへの不慣れから、現地において十分にニーズ調査を行うことができませんでした。さらには、東京事務所および現地事務所間でのコミュニケーション不足、関係者間での意思疎通や連携などにおいて、問題が生じたことも事実です。これらの課題については、緊急から復興の段階に移行する過程で改善に向かっています。

2011年4月、山田町にて撮影

この1年を振り返り、今後、万が一にも国内震災が発生した際にはまた対応するべきだと、スタッフ一同、思うところです。実際、国内での支援を行うことは、受益者に対して客観性を保つことが難しいなどの課題もありますが、組織としての経験を深め、新たな支援者を得るなど多くのメリットももたらすでしょう。今後は、CAREのビジョン及びミッションとの適合性、適切な人材・資金の確保などの条件を盛り込んだ判断基準を制定し、それに基づいて支援実施の有無を判断すべきであろうと思います。新たな大災害が起こらないことを心より祈りつつ。

常務理事・事務局長　武田　勝彦

宮古事務所 担当者の想い

～ともに～

震災の日、東京の日本語学校で授業を行っている最中でした。まずは留学生たちを安全な場所に避難させ、職員が先導してそれぞれ徒歩で帰宅させました。夕方、コンピューターのニュースで流れた東北沿岸部の様子を初めて見ました。目を疑いました。

そして数日後、以前勤めていたCAREから電話が入りました。青森から岩手までの雪道を車で支援物資やヒトを運べる人を探していると。できないか？「はい」と即答したかったのですが、できませんでした。

震災の翌日から、留学生たちが「私たちに何かできませんか」、「怖いけど私は日本が好きだから、日本に残って困った人たちを助けに行きたいです。どうしたらいいですか？」と聞いてきました。心を打たれました。自分自身、東北の人間なのに自分はここで何をしているのだろうと自問しました。上司に相談しました。学生たちの帰国対応が済んだら行って来いと後押ししてくれました。

5月上旬、被災地に着ました。言葉を失いました。避難所を訪れました。なんと声をかけたらいいのか正直わかりませんでした。

地元の方たちはこのような状況にもかかわらず、とてもあたたかかったです。どこに行ったらいいのか、誰に会ったらいいのか、自身の身の回りのことだけでも大変なはずなのに、私のような外部から来た人間に丁寧に教えてくれました。

6月、山田町の社会福祉協議会の主催による、誰でも気軽に集まってお話できるお茶会「コミュニティカフェ“よりあいっこ”」に参加しました。参加された方々は震災当日の様子や家族のことなども話してくださいました。常に明るく対応しているスタッフ自らもまた被災された方々だと、しばらくしてからわかりました。

以降、心のケア活動の一環として、コミュニティカフェ、コミュニティ新聞、リクリエーション活動支援、伝統芸能・お祭り支援等を地域の方々とともに行ってきました。

震災からもうすぐ1年が経ちます。最初に来た時と比べると、仮設団地が建ち、お店も増え、コミュニティカフェで会う住民の方々の表情も少しずつ変わってきました。地域主体の組織も立ち上がり日々活動を展開しています。

しかし、そうでない人たちがまだまだたくさんいることを忘れてはならないと思います。お会いするときはいつも笑顔ですが、「時々、何も映っていないテレビの画面をずーとみているの」というお母さんもいらっしゃいます。

一人ででも頑張れる人もいるが、そうでない人もいます。

「復興」、「絆」という言葉がつらい人もいます。

支援格差も問題になっています。

目の前にある状況にとらわれるのではなく、そこには見えないもっと深いところにある大切なことを感じ取り、支援してくださる世界中の方々の気持ちを、地域の方々の心につなぎ、ともに今後もできる範囲での活動をしていきたいと思っています。

（宮古事務所　心のケアPM　玉熊　諭）

山田町の町民グラウンドで開かれた「よりあいっこ」で参加者と談笑する玉熊さん（右奥。2011年7月撮影）

山田町内の仮設住宅は全部で49カ所。
スタッフは毎月、全ての仮設住宅を回り1軒ずつ新聞を配達しています

東京からも想いを届けて

東京においては、これまで２回に亘り「岩手創作料理教室　シェフとつくる！ぅんめぇ　いわて！」を開催。岩手県花巻市出身の古川シェフから岩手の食材をふんだんに使ったお料理の数々を学びながら、被災地に想いを馳せました。寄付、ボランティア、そして被災地の各県で生産された食材の購入…。

一人ひとりができることを実践すれば、それは被災地の復興に向けた大きなチカラとなります。

今回古川シェフに、料理教室へのご協力いただいた想いを伺いました。

古川　義明氏

銀座アルコ・イリス　シェフ/希望郷いわて文化大使・花巻イーハトーブ大使

オステリア・ラ・ピリカの今井寿氏に師事。イタリアンをベースにした世界各地の創作料理を得意とする。近年は出身地岩手の食材に魅了され、岩手産を取り入れた彩り豊かな料理を提供。その活躍から、故郷花巻の親善大使「花巻イーハトーブ大使」などに任命され、故郷の観光推進にも一役買っている。

Q料理教室へのご協力を引き受けてくださった想いは？

Aなかなか被災地には行けなくとも、東京にいながらにして、岩手の食材に触れ、素材の味を知り、生産者が愛情込めて作ったことを知ってもらいたい。そして、参加された皆さんが岩手の素晴らしさを認識し、周りの仲間にも伝えていただければと思い引き受けました。（料理教室を通じ）少しでも復興の手助けができる意識を持っていただけると嬉しいです。

Qシェフお薦めの岩手の食材は？

A実際に震災が起きる2か月前に初めて大船渡市、陸前高田市に食材視察に行きました。牡蠣やホタテ貝の養殖を見て、牡蠣小屋でたくさんの牡蠣料理を頂きとても美味しかったです。また、老舗の醤油屋を見学し、伝統の味を続けるこだわり方が凄かったのが印象的です。今後も自分が料理人である以上、岩手すべての食材をいろんな形で使い、広められればと思っています。

（CAREからのお知らせ:次回の料理教室では、この岩手の牡蠣を使ったリゾットを作ります。詳細は８ページをご覧ください。）

参加者の想い ～皆のチカラを集結させて～

第１回、第２回の岩手創作料理教室に続けてご参加いただいた３名の皆様にも、ご感想を伺いました。

小原　佐和子様　3.11以降ずっと今私にできることは何か考えていました。被災地には何度かボランティアに参加させて頂きました。被災地に行けない時、こちらで何かできないか探していたところ、古川シェフと一緒に料理をしてその純利益が被災地の方々への支援活動に使われるとのことで参加を決めました。私の父も岩手県花巻が故郷で「岩手県花巻出身の古川シェフとの料理創作料理教室」の文字を見た瞬間、真っ先に申し込みしました。父の田舎が岩手で、東北の美しい自然と優しく思いやりに溢れる方々と触れ合ってきた私にとって、いつか自分の記憶にある美しい自然に満ちた東北になり、皆さんが安心して暮らせる街になるようとにかく一日でも早く復興されることを祈っております。

（小原様、左端）

中山　幸子様　3.11は涙が止まらない日でした。友人から東北震災応援の料理教室を聞き、即参加決めました。古川シェフの軽妙な説明とスライド、そしてCAREのスタッフの助けで、楽しく美味しい料理が出来上がり、嬉しかったです。行動力のある皆様方は素晴らしいです。微力な私も自分で出来る事を続けられたらとの思いを強く感じる毎日です。

照井　敬子様　同郷の古川シェフが講師の復興支援チャリティーと聞き、すぐに申し込みました。しかもメニューが魅力的。岩手の新鮮な食材満載のサラダとボロネーゼは、先生とチームの頑張りでとても美味しくできました。CAREの支援活動報告なども頂き、微力ながら私たちも少しだけお役にたてたかな…と感じました。

（照井様、左から2人目）

一年のハイライト

'11

緊急支援フェーズ

食糧支援

22日●大槌町のコミュニティー新聞「まごころ新聞」創刊支援
●大槌町の小中学校に楽器・器材、学習教材を寄贈
18、800枚のタオルケットを配布
●宮古市、釜石市、山田町、大槌町の仮設住宅に
●山田町にて地元商店で使える商品券を配布
およびお祭り支援を開始
●山田町、大槌町にて伝統芸能20団体への支援、

7月

30日●炊き出し事業終了
中旬●大槌町の在宅被災者にお米とお味噌を配布
4日●東京にて「岩手創作料理教室―うんめぇいわてー」を開催
●山田町、大槌町にて飲食店再開支援を開始
コミュニティカフェ支援を開始
●山田町社会福祉協議会が主催する
●心のケア活動を開始

6月

宮古市にお米などの食料や物資を配布
中旬●山田南小学校の避難所に270組の敷布団と
1日●山田町の避難所新聞「くじら山ろく」創刊

5月

21日●岩手県立陸中海岸「青少年の家」での炊き出しを開始
16日●新学期開始に伴い、山田南小学校での炊き出し終了
3日●大槌町にて事前調査を開始
1日●山田南小学校での炊き出しを開始

4月

31日●東日本大震災被災者支援活動ブログを開設
30日●東日本大震災への対応に関する中長期事業戦略を発表
23日●現地調査を開始
18日●岩手県釜石市に支援物資を輸送
17日●緊急物資配布支援のため、東京を出発
13日●「東北地方太平洋沖地震緊急募金」受付を開始
11日●東北地方太平洋沖地震発生

3月

皆のチカラを

伝統芸能・お祭り支援

山田八幡宮、大杉神社、関口神社、白山神社
宮司　佐藤　明徳様（下閉伊郡山田町）

お祭りをやることで、町の人たちに少しでも前向きな生きる力を与えられればと、それが神社の役目なんじゃないかと思いました。祭りにかかわる5つの団体が震災で全てを無くした状態でしたが、祭りをやると言った瞬間、町の人たちにもスイッチが入りました。必要なものを揃えることができ、みんなで一丸となって祭りに向かって取り組んだ、そのパワーはすごいものでした。そのパワーが山田町の復興に繋がっていくことを願います。そして、震災で故郷を出て行った人たちが祭りを通じてここに帰って来てくれること、それが一番の願いです。

臼澤鹿子踊り保存会
リーダー　東梅　英夫様（上閉伊郡大槌町）

震災で亡くなった多くの人たちの無念を晴らすためにも、生きた我々が頑張って伝統芸能の活動を続けていかなきゃダメだと、長い時間をかけてようやくそう思えました。明治、昭和の津波の時に生きていた人たちだって同じ苦難を乗り越えて、400年の芸能の歴史が続いているのですから、それを自分たちが絶やしたらご先祖様にも顔向けできません。壊滅状態になって「もう休止するかもしれない」と言っていた団体もありましたが、支援が入ることで何とか踏み止どまって、最終的に全団体、立ち上がることができました。伝統芸能はコミュニティの結束を強める役割を担う。今回の震災に直面して、それが理屈じゃなく活きたものだと実感できました。

部活動支援

宮古工業高校
副校長　眞岩　一夫様（宮古市赤前地区）

学校では授業再開に関することが最優先で、部活動の環境整備が後回しになるのは致し方ありません。しかし、そこには支援が必要でした。部活動が正常に動き出してからは、生徒の活気と明るさが全然違います。そして若者が一生懸命何かをやっている姿は、見ている地域の人に即効的な勇気や元気を与えます。震災の夜、孤立した校舎で生徒たちは、避難してきた地域の人たちのために率先して働きました。この時も部活動で培われたチームワークが活きたと思っています。これからも学校から地域に向かって、復興の源になっていきたいという気持ちでいます。

宮古工業高校　ラグビー部
部員　伊東　秀訓様（宮古市

（前列右から２人目）

たりできないのかもしれない
た。去年の8月末、改修工事
られた時は、本当にまた自分
きるんだと思って嬉しかった
大会で一つでも多く勝てるよ

社会福

社会福祉法人　親和会
理事長　山崎　幸男様（下閉

（右から２人目）

乗降ができるので、利用者
今後は一日も早く施設を再建
ち着ける環境を整えたいと思
務所の裏山一帯を整備して

生活支援・心のケア

●山田町の仮設団地に物置を設置

2月

沿岸被災地域の住民を無料招待
小学生によるミュージカル公演（於盛岡）に、

●「劇団ゆう」と沿岸被災地の
KIDSルームの開催を側面支援

●山田町で第2回「思い出写真展」、および

1月

5棟を寄贈

●産業復興支援の一環として、山田町にユニットハウス

●田老地区コミュニティ新聞「明日に向かって」創刊支援

23日●大槌町民バス車両2台を寄贈、同日運行開始

●大槌町内の路線バス停留所9箇所に、ベンチを設置

12月

●釜石市地域包括支援センターに巡回用車輌1台を寄贈
大型海洋実習船の自家発電装置を寄贈

29日●宮古水産高校にカッター船2隻、および
山田町社会福祉協議会にレクリエーション用具を提供

●高齢者支援の一環として、釜石地域包括支援センターと、

●山田町の社会福祉法人に介護車両1台を寄贈

11月

およびKIDSルーム開設を側面支援

●山田町社会福祉協議会が主催する「思い出写真展」協力、
日曜大工を楽しむ「男の居場所」の開始を支援

●山田町社会福祉協議会が主催する男性を対象とした

10月

●釜石市にてカタログを活用した家電支援を開始

11日●山田町の仮設住宅新聞「希望」創刊（「くじら山ろく」後継紙）
「劇団ゆう」の復興支援ミュージカル公演を側面支援

●宮古市にて保育士支援の一環として、

9月

●中学校、高校の部活動支援を開始

8月

信じて支える

市赤前地区）

「これは現実に起きている事なんだろうか?」。震災の時は信じられないような光景を見て呆然としました。もうここでラグビーしたり勉強しい、と思うと悲しくなりました。が終わって学校に戻って来分たちのグランドでプレーでです。一生懸命練習して、うに頑張りたいと思います。

祉支援

開伊郡山田町）

震災後はバスで避難所を回っていましたが、車椅子仕様ではなかったため、その点、不便でした。いただいた車輌は車椅子のままも喜んでくれると思います。して、利用者が心も体も落ちっています。現在の仮設事、高台に保育園と高齢者、障害者用の施設を集めた福祉の里を造りたいと考えています。何年か後には、きっと見違えるようになっていると思いますので、是非見に来てください。

飲食店再開支援

おらが大槌　復興食堂
店長　岩間　美和様（上閉伊郡大槌町）

これからの大槌を自分たちの手で盛り立てていきたい、それが始まりでした。具体的に何をどうするのか、仲間で集まって一枚の構想図を描きました。町の特産品を作ってアピールし、被災地見学ツアーで人を呼ぶ、そうすると食べる場所や宿泊施設も必要になる、博物館もあればいいなと思う。大槌をこんな町にしたいという「夢」をベースに、連動する事業のアイデアがどんどん広がりました。事業が動き出せばそこに雇用も生まれます。そうした構想に基づいて、最初に動き出せたのが「復興食堂」です。ここを人と情報が集まる場所にして、また新たな展開が生まれるような場所にできればと思っています。支援は、構想を現実に移すきっかけを作ってくれました。私たちの背中を押してもらったと思っています。

大槌復興軽トラ市
六串商店　六串　恵子様（上閉伊郡大槌町）

してもらえることをただ受け取るだけというのではなく、自分たちでも工夫して、働いて、お金を得られる場所を造る。そんな風にしていきたいと思って、トラック一台あれば誰でも参加できる軽トラ市を立ち上げました。開催日には、誰でもどこからでも来て商売して、生活再建の第一歩にしてもらえればと思います。これからも県内外を問わず、どこにでも出向いて頑張っていきたいと思います。

釜石市カタログ家電支援

栗村　千鶴子様（釜石市甲子町）

この度の支援により、厳しい寒さの中でも暖かい生活を送って居り、心より感謝いたします。

震災で全てを失うとは、思ってもいない事でした。津波で家も思い出の品々も流されてしまいました。中でも十三年前に他界した母が、病床で書いた手紙を流された事が一番辛かったです。文末を「頑張りませう」と結んだ母の手紙は、時折読み返す、大切な手紙でした。「頑張りませう」を心に、良き思い出を作れる様、復興に向けて一歩ずつ進んでおります。

冬麗や、「せう」と結びし母の遺書　　千鶴子句

3.11を経て、加速度的に多様化するCARE×企業の連携

互いの強みや資源を結集して、「心ひとつ」に取り組む被災者支援

昨年12月、経団連が発表した「東日本大震災における被災者・被災地支援アンケート」調査結果（速報）によると、災害発生から9月までの企業・団体による支援総額は1,200億円を超え、その方法も、従業員募金や店頭募金、寄付金付き商品の販売など、企業としてのみならず、社員や消費者、また顧客等に広く寄付を呼び掛けて集められたとされています。また金銭的な支援のみならず、回答した企業の5割が、自社・グループ製品・サービスの提供や、社内備蓄品などの提供を行ったとし、その寄付相当額は144億円にのぼるとされています。

まさに当財団にとっても、国内外からの個人によるご支援に加えて、たくさんの企業の皆様にも支えられての被災地支援となりました。ここに改めて、感謝の意を表します。

寄付金によるご支援

コスモスモア、イースクエア、コスモスイニシア、オルタナ基金、PT Karang Mas Sejahtera、PT Karang Mas International、PT Prima Adhitama International、日興アセットマネジメント、サルサンバ会、丸紅、ヤマノビューティメイト、Ajinomoto Co.,(Thailand)Ltd.、visavis美容室、薬樹、湘南IVFクリニック、ソシエテ ジェネラル証券会社、シュナイダーエレクトリック財団、サノフィ・アベンティス、アクサ生命保険、ノバルティス ファーマ、キヤノン、王子ネピア、ゴールドマン・サックス財団

物品・サービス・場所・機会等の提供によるご支援

【食料・飲料品】マルタ醸造、ドール、みすずコーポレーション、マルモ青木味噌醤油醸造場、丸紅、スターバックス コーヒー ジャパン、味の素、森永製菓
【衛生用品・医療品】ヤマノビューティメイト、ミマスクリーンケア、カネボウ化粧品、三通国際商事、ロート製薬
【その他】日産自動車、富士ゼロックス、デロイト トーマツ コンサルティング、コジマ、大成建設、レゴエデュケーション、ジョンソン・エンド・ジョンソン、リコー、三菱電機、三菱地所ビルマネジメント、ビデオエイペックス

社員ボランティア被災地派遣によるご支援

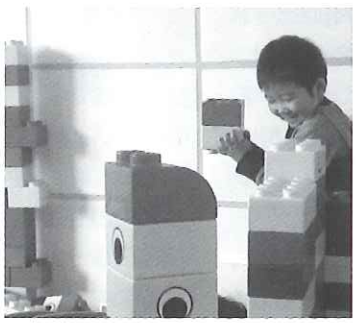
イースクエア、サノフィ・アベンティス、AXA生命保険、味の素、花王、カネボウ化粧品、スターバックス コーヒー ジャパン

広報によるご支援（メディア実績）

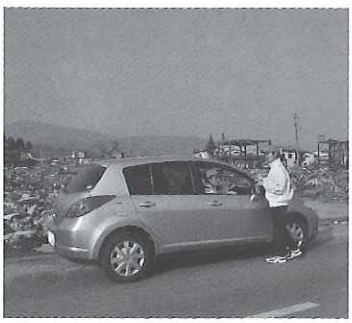
朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、日本経済新聞社、岩手日報社、ジャパンタイムズ、日本放送協会（NHK）、TBSテレビ、岩手めんこいテレビほか

（時系列、2012年2月末現在）

スターバックス コーヒー ジャパン


レゴエデュケーション

丸紅


日産自動車

いろいろな支援のカタチ

人の「手」が持つチカラ（カネボウ化粧品）

仮設住宅にお住まいの方のよりあいの場「よりあいっこ」。１月には、株式会社カネボウ化粧品による美容プログラムを実施しました。東京から５名、盛岡から１名の社員の皆様にご用意いただいた内容は、専用の測定器を使った肌診断と結果に基づくフェイシャル ローションマスク、パラフィンパックを使ったハンド・ケア、そしてネイリング。

ハンド・ケアでは、社員の方が素手でマッサージ。手から相手の肌に直に伝わる癒しは身体だけでなく心までもほどくのか、何人もの参加者が、マッサージを受けながらご自身のことや震災時のことなどをスタッフの方に語り始められるのを目にしました。

リラックスして、心に浮かぶことを吐き出して、肌だけでなく心の新陳代謝も行われているようでした。人肌のぬくもりには、他のモノには代えられない安らぎと心地良さを与えてくれます。このようなプログラムが、忘れかけていた時間を取り戻すきっかけになり、暮らしや心をうるおすためのお役に立てばと思います。

参加者は16名。大いに喋って笑って盛り上がりました（山田町山田第７仮設団地内）

「選べる」楽しみ（大成建設）

昨年10月、大成建設株式会社から、山田町のわかき保育園に新品の子供服がたくさん届けられました。小さなスカートやズボン、トレーナー、ジャケット、帽子など、デザインも種類も豊富で全部で700点ほど。それは、カラフルで可愛らしい服がぎっしり詰まった「お楽しみ箱」でした。

わかき保育園の旧園舎は海の近くにあり、津波で浸水した後、火災で焼失してしまいました。しかし、幸い園児も職員の方々も全員無事。現在は、地元のお寺が所有する高台の建物内に間借りして園の運営が再開されています。

洋服の配布は、保育園に品物を届けられた翌週から始められる予定となっていましたが、「お楽しみ箱」は園児の目に見えるところに置かれていて、子どもたちはたくさんの洋服を見ながら「あれが良い！」、「この服が欲しい！」と、配布の日まで毎日、期待に胸を膨らませていました。震災後、とにかくあるものを受け取ることが続く中で、「たくさんある中から好みのものを選ぶ」ということ自体も、久し振りの機会だったのかもしれません。

お気に入りの服、見つけた！大人も子どもも、好きなものを選ぶ時はわくわくします

「お買物」で被災地支援（ジョンソン・エンド・ジョンソン）

昨年９月末、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社の協力を得て、同社での岩手特産品の販売会が実施されました。当財団が地元経済の再生を願い支援している個人商店や飲食店から直接買い付けられた商品は、ジャガイモ、トマト、しいたけなどの野菜をはじめ、お米、醤油、はちみつ、かりんとうなど、新鮮さと味が自慢の品々です。

当日は、多くの社員の皆様にお集まりいただき、当財団の被災地支援活動をご報告する時間もいただきながら、夕方からの短い時間でほぼすべての商品が完売しました。

気軽に、楽しく、そして被災地への直接的な支援につながる。そんな販売会を通じて、これからも当財団は、東京からの支援を行っていきます。

当財団では、被災地の特産品のカタログを作成し、企業やグループでの販売を積極的にご提案しています

イースクエア

デロイト トーマツ コンサルティング

リコー

味の素

CARE Notice Board

東日本大震災　1周年復興祈念行事を開催します

4月1日に、東京丸の内において、「東日本大震災を乗り越えて ～未来を創る私たち」と題する復興祈念行事を開催します。震災から1年を経た「今」の被災者の方々の想いを届けます。当日は、大槌町の伝統芸能グループ「一心会」による民謡披露、岩手県の物産販売会、そして被災地における活動写真展が同時開催されます。

●日時：2012年4月1日（日）12:00～15:00
●場所：オアゾ ○○広場（東京丸の内）
●参加費：無料（どなたでもご参加いただけます。）
●詳細：今後、当財団HPに掲載いたします。

「一心会」のメンバーには子どもたちも。この小さなメンバーも丸の内で民謡を披露します

第3回 シェフと作る！ ぅんめぇ、いわて！「創作料理教室」の 開催決定！

3月24日に、3度目の、古川シェフのご協力を得て、岩手の新鮮な素材を使った創作料理教室を開催します。今回のメニューは、三陸の新鮮な牡蠣をつかったリゾットと岩手野菜のミネストローネです。この料理教室の純益は、当財団の事業をとおして、最も困難な状況にある人びとの支援活動に活用させていただきます。

●日時：2012年3月24日（土）　12:00～15：00（11：45～　受付開始）
●場所：文京区　アカデミー湯島調理室
（地下鉄丸の内線・都営大江戸線本郷三丁目駅より徒歩10分、
千代田線湯島駅より徒歩7分）
●お申込み先：event@careintjp.orgあるいは当財団HPから

前回はかぼちゃのニョッキを作りました

事務局からの報告

ベトナム「HIV陽性者とエイズ孤児のエンパワーメント事業」を終了しました

当財団は、昨年末、21ヶ月にわたる本件事業を終了しました。これに伴い、1月30日、当財団の会議室において、前日にベトナムより帰国したばかりの事業統括者による報告会を実施。ベトナムの国情を踏まえ、事業を実施する上で困難だった点やプロジェクトの成果と課題の両方の視点を織り交ぜながら、写真なども多用して、ざっくばらんに報告を行いました。

参加者の皆様からは、「悪い所と良い所、両方を聞くことができてよかった」、「本音を話されていたので、大変興味深かった」、「難しい話ばかりだと思っていたけれど分かりやすかった」との声が寄せられました。報告会の詳細は、当財団HPよりご覧いただけます。

熱心に耳を傾ける参加者ら。トークにも熱が入ります

～個人支援者専用ダイヤルを設置しました～　個人支援者専用ダイヤル TEL: 03-5944-9931

ケア・インターナショナル ジャパン
ニュースレター
CARE World Vol.20
2012年3月31日発行（季刊）
発行人：五月女　英介
編　集：甲斐　博子
※ 小誌へのご意見、ご感想を募集しています。上記発行元までお寄せください。
※ このニュースレターのデザイン・レイアウトは、CAREのデザインボランティアの沼尻初恵様のご協力により、制作されています。

公益財団法人　ケア・インターナショナル ジャパン
〒171-0031 東京都豊島区目白2-2-1 目白カルチャービル5階
TEL：03-5950-1335　FAX：03-5950-1375
E-mail：info@careintjp.org
www.careintjp.org

宮古事務所
〒027-0083 岩手県宮古市大通3-4-15 2階
TEL: 0193-77-3812　FAX: 0193-77-3813